

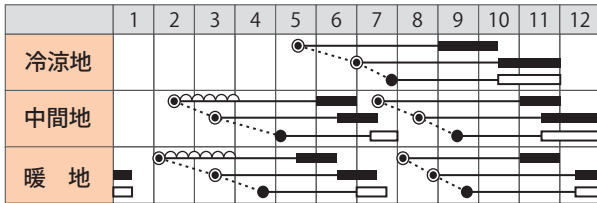
一代交配

ハーモニーシリーズの栽培の要点

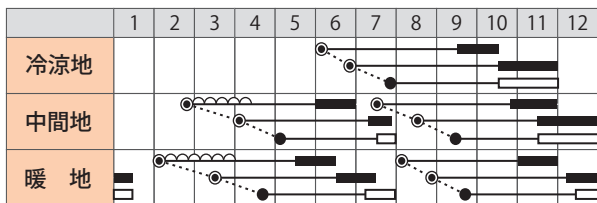
栽培表

● 下記の栽培表を参考に貴地の気候に合わせて栽培して下さい。

熟期 120 日 イエロー・クリーム・ホワイト・オレンジハーモニー共通



熟期 110 日 バイオレットハーモニー



○ 適期播種(通常栽培) ● 播種(ミニサイズ収穫) ◡ トンネル — 生育 ■ 収穫 □ ミニサイズ収穫

圃場づくり

土質の条件

- 「ハーモニーシリーズ」の特徴の一つが肌の美しさです。その美しさを最大限に引き出し、より品質の優れた青果を収穫するためには土づくりがとても重要です。
- ニンジンには耕土が深く、水はけが良い土壌を好みます。水田や粘土質などの水はけの悪い土壌では根長が短くなり、肌質が悪くなりますので、高畝にして栽培します。

土づくり

- 2t/10a以上の完熟堆肥を施用し、深く耕うんします。
- 苦土石灰を 100kg/10a 施用します。土壌は pH6.0～6.5 程度の弱酸性土壌を基準とします。土壌の酸性度が強くなると葉色が悪くなり生育が抑制される原因になります。また、極端なアルカリ土壌に傾くと塩類過剰に起因して肥やけ等の障害が出やすくなります。
- 播種前にはセンチュウ対策のために土壌消毒を行います。
- 連作は病害虫が多発する原因になることがあるため、可能な限り避けま。

施肥例

- 施肥量は標準的な五寸ニンジンを基準として考えますが、残肥がある場合や肥沃な土壌では元肥を 20%程度減らします。

春蒔き

(施肥例)	肥料名	肥料量 (kg/10a)	成分 (kg/10a)		
			N	P	K
土づくり	完熟堆肥	2,000			
	苦土石灰	100			
元肥	化成肥料(10-20-10)		20.0	20.0	10.0
追肥	化成肥料(14-4-14)		0.8	0.8	2.8
全施肥量			20.8	20.8	12.8

夏蒔き

(施肥例)	肥料名	肥料量 (kg/10a)	成分 (kg/10a)		
			N	P	K
土づくり	完熟堆肥	2,000			
	苦土石灰	100			
元肥	化成肥料(6-8-8)		7.2	9.6	9.6
	苦土重焼燐			14.0	
追肥	化成肥料(18-4-12)		3.6	0.8	2.4
全施肥量			10.8	24.4	12.0

播種と間引き

播種

- 播種の時期と間隔は目的とする収穫サイズを考慮して決定します。
- 比較的抽苔は遅い品種ですが、極端な早播きや低温期の播種は避けま。
- ニンジンの種子は吸水力が低く乾燥に弱いので、播種後に十分な灌水を行います。ただし土壌が過湿になると立ち枯れ病等の原因となりますので注意します。
- ニンジンには光好性種子なので、覆土の暑さは 0.5～1.0cm までとします。
- 高温期の播種では、被服資材を用いスムーズな発芽を促します。



- ハーモニーシリーズの種子は上図のように種子の形そのままにフィルムコーティング処理した縦長型のネオコート種子です。一般のコート種子のような丸型ではなく、よりサイズの小さい長粒型種子です。
- 播種機を使用する場合は 1 穴に落ちる種子の量が前後しますのでご了承下さい。お持ちの播種機に対応できない可能性もあります。(例：ホウレンソウなどの小粒種子用のベルトを用います。ロットによりサイズが前後致しますので、2～3粒落ちる穴径のベルトを選択します)

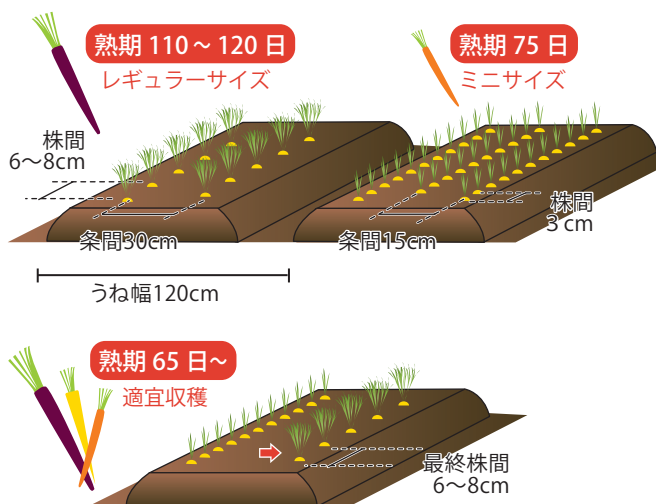
裏面に続く

間引きと収穫サイズ

レギュラーサイズ: 根長 20～25cm、根茎 3～4cm で収穫します。約 23,000 本 /10a を植栽し、本葉 3～4 枚時に密生した部分を間引き、本葉 6～8 枚時に間引きをし最終株間 (6～8cm) に仕立てます。根長 15cm、根茎 2cm で収穫します。

ミニサイズ: 約 80,000 本 /10a を植栽し、本葉 3～4 枚の頃に 1 回間引きします。

適宜収穫: 間引きをせずに、播種後 65 日くらいから若穫りをし、その後 40 日程度でレギュラーサイズを収穫します。



注意点

- ① 収穫のタイミングを合わせるには、バイオレットハーモニーのみ 5 日～7 日播種を遅らせてます。
- ② ホワイトハーモニーは生育中期以降生育が旺盛になるため株間は他の品種の半分程度の密植とします。
- ③ オレンジハーモニーは種が小さく、葉の生育が他と比べて弱いので播種後の乾燥や多湿に注意して下さい。

管理

水管理

- ① 灌水は生育前半は多湿気味とし、生育後半は乾燥傾向に仕立てます。良品多収のためにもスプリンクラーや灌水チューブが有効です。
- ② ニンジンが多湿と乾燥が向後に繰り返されると裂根の原因になるので注意します。
- ③ バイオレットハーモニーの色素は水溶性です。長雨が重なると色素が流亡しますので、水はけの良い圃場を選択して下さい。

土管理

- ① 必ずしも土寄せは必要ではありません。土が軽い圃場では状態に応じて行うようにします。
- ② 除草剤は播種直後に土壌に湿り気があるうちに散布します。

追肥

- ① 追肥の目安は 1 回目を播種後 30 日過ぎとし、2 回目を播種後 60 日過ぎとします。いずれも中耕を兼ねて行い、施肥例は表ページの表を参考に草勢を考慮して決定します。
- ② 生育後半の追肥は、葉の過繁茂や根の着色不良の原因になりますので注意が必要です。

病害虫

- 特に病気に弱い品種ではありませんが、病害虫については定期的な薬剤散布を心掛けます。主な病害虫は以下の通りです。

ネコブセンチュウ: 被害根はこぶ状になるため見分けが付きやすいです。葉のしおれと根の肥大阻害が発生します。連作を避け、作付け前の土壤消毒を行います。

ネグサレセンチュウ: 圃場に生育不良株が複数発生します。短根や裂根、肌の荒れ等が発生し、根の先端近くにはヒゲ根が目立ちます。ニンジンやゴボウの連作を避けま。

黒葉枯れ病: ニンジンの主要病害のひとつです。比較的高い温度 (28℃程度) での発生が多く、肥料切れでより出やすくなります。定期的な薬剤散布が必要で、よく似た病害に黒斑病があります。

根腐れ病: 高温多湿条件下で発生します。土寄せの際に葉に土が被らないようにします。

軟腐病: 高温多湿条件下で発生します。中耕や間引き、収穫の際には葉や茎を傷つけないようにします。

収穫後

鮮度保持

- ① 収穫後は出来るだけ、光が当たらないように管理し、調整・出荷を行います。
- ② 特にイエロー・クリーム・ホワイトハーモニーは光線影響による変色が早いため、商品価値の低下に留意します。イエローハーモニーは光合成により出荷直後から緑化していきます。乾燥により光合成が助長されますので乾きすぎないように注意します。
- ③ 手洗浄の場合、バイオレットハーモニーは乾燥すると薄皮が目立ちますので、機械洗浄に切り替えるか乾きすぎないように注意します。

出荷調整

- ハーモニーシリーズは色ごとに形状や生育スピードが異なります。アソートで販売する場合にサイズが合わない場合は、葉の付け根を揃えて、根の先を短いものに合わせてカットします。



不揃いな場合は頭を揃えてカット

- 播種後 70 日前後から着色しますので、間引きニンジンのお荷可能ですが、播種後 65 日前での収穫は着色が浅いので注意します。小さいサイズでの納品を希望される方も多数おられます。
- 通常は葉付きでネギ袋に 3～5 色入れて販売します。